

会報

77号

れきふ

函館の歴史的風土を守る会会報  
No.77 H16. 9. 1  
発行所 函館の歴史的風土を守る会  
事務局 函館市五稜郭町43-9  
五稜郭タワー株式会社内  
電話(0138) 51-4785  
印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845

今田光夫 初代会長を悼む



昭和53年(1978)「函館の歴史的風土を守る会」が設立され、同年4月22日開催の創立総会で初代会長に選出された。以来10年間の激務を終え昭和63年(1988)5月総会で浜島国四郎会長へバトンタッチして勇退された。

当会設立のキッカケとなった旧渡島支庁舎の修復保存運動を展開する一方で、ハリストス正教会の清掃活動。「歴風文化賞」の創設。連絡船を函館に残す運動等を展開した。

更にシルクロードの莫高窟保存、ナショナルトラスト全国大会、イコモス(ユネスコの外郭団体)等国際性への連携を深めた。

田尻副会長(故人)、工藤光雄事務局長(故人)と名コンビを組み、全国の町なみ運動に函館の歴風会の存在感をより強固にさせた功績は大きかった。平成10年5月31日開催の歴風会創立20周年式典には、車イスで出席され会員を激励して下さった。平成16年9月4日午前2時24分94才で逝去された。

「歴風会」の発足当時について

前会長 今田光夫

「歴風会」創立20年を迎えられ、まことにおめでとうございます。

函館はまさに歴史と観光の都市であります。その基盤が歴史的風土です。この文化遺産を、よりよく保ち、大切に残すために創られた、この会に会長として参加出来たことは、まことに私の後半生の生甲斐となり、又、人生における視野が広がり、多く学ぶおとがありました。



車イスで参加された今田前会長

この「歴風会」は最初は、いつまで続くかと危慮されていたようでしたが、私は10年勤め、「歴風会」の継続、発展のためには若い力をこそと、現会長の浜島先生にお願いしたのですが、これは正解でした。

創立当初からの田尻さんをはじめ会員の皆様が、暖く新会長を授け、この地味にして、最高の価値ある活動を見事にこなし、20周年を迎えられました。私としては、まことに満足であります。

当時、若い一主婦だった田尻聡子さんの新聞社への投書から始まったこの市民運動は、やがて、函館市文化財保護審議会等、市としての働きにも繋がり、多くの成果を挙げて来ました。

しかし、まだ、未来があります。ともすれば目先の利益の追求のみに明け暮れて、本当に大切なものを忘れがちな、時代の流れの中で、折角ここまで創り上げた先人の志を理解し、爽かにボランティア精神のもとに活動する若い人々の参加を切に願ってやみません。

(れきふう59号より)

プロフィール

- 明治42年9月 札幌市に生まれる。
- 昭和7年 北海道大学水産専門部 漁撈科卒業。  
合同漁業(株)入社。
- 昭和13年 日本水産(株)転出。  
応召・復員の後、北海道水試留萌分場長を経て、水産庁北海道区水産研究所に転じる。
- 昭和38年 東海区水産研究所主任。
- 昭和39年 文部省出向。北海道大学教授。
- 昭和48年 定年退官。
- 昭和53年 「函館の歴史的風土を守る会」会長。  
(昭和62年まで)  
水産学博士。

\* \* \* \* \*

【著書】

- ニシン文化史(1986)
- ニシン漁家列伝(1991)
- 函館公民学会60周年記念誌(1964)
- 他 漁業資源に関する論文多数。  
(「ニシン文化史」より)

**特別  
寄稿**

# 市町村合併とまちづくり



函館市長 井上 博司

当市は、1859年に我が国最初の国際貿易港として開港して以来、北洋漁業や青函連絡船の基地として造船・水産加工等の産業が盛んとなり、昭和50年代後半からは函館山からの夜景を中心とした観光が主となって近年は年間観光客入り込み数が500万人を超え、観光関連産業は基幹産業の一つとして地域経済を支えています。

また、陸・海・空の交通体系が整っているという地理的優位性を有しており、現在、北海道縦貫自動車道

をはじめとした高速自動車道の整備や港町大型公共埠頭の施設、函館空港ターミナルビルの拡張などの整備が進められてきており、さらに、地域にとって長年の悲願でありました北海道新幹線については、新青森・新函館間の着工が現実のものとなってきました。

さて、当市のこれまでの合併の歴史を振り返りますと、昭和14年に湯川町と、昭和41年に銭亀沢村と合併し、湯川温泉街や函館空港などの地区が市域に加わり、昭和48年には亀田市と合併し、現在3地域の人口を合わせると当市の人口の6割以上を占める状況にあります。

そして、本年12月1日に戸井町・恵山町・楳法華村・南茅部町と合併すると、人口は1万7千人余り、面積は331㎡増え、総人口は30万人となり面積は現在の2倍近くに拡大することになります。

このたびの合併にあたっては、住民福祉の向上と地域の振興発展を基本に、「住民が良かったと思える合併を考える」「合併後においても行財政改革にしっかり取り組む」などの観点から、5市町村が一つの地域として共に手を携え、この厳しい時代を乗り切るために各種の課題にどのように対応することができるのか、また、新しい展望の下に、どのようなまちづくりを進めることができるのか、さらに、南北海道の中核都市としての役割などを総合的に検討した中で、合併につ

いての取り組みを進めてきたところです。

5市町村は「海」を共通の基盤として拓けてきた地域であり、合併後のまちづくりは、当市が進めている国際水産・海洋都市構想に基づく学術・研究と、全国的にも屈指の漁獲高を誇る漁業を中心とした水産業の振興と

の効果的な連携による新たな産業や雇用の場の創出を目指すとともに、国内外に発信力のある水産・海洋の都市を強力にアピールしていきます。

また、五稜郭跡や縄文遺跡をはじめ数多くの歴史・文化遺産等に恵まれており、これらの保存・活用と伝承に努めながら、自然・温泉なども活かしたスケールの大きい観光地づくりを目指すなど、各分野における施策を積極的に進め、豊かな海と緑深い大地、そこに集う住民の息づかいが聞こえるまちづくりを目指していきます。



平成16年4月23日（金）

# 平成16年度 定期総会終わる!



## 佐々木馨氏副会長

## 新運営委員に3名選出

去る5月22日、駅前五島軒で平成16年度定期総会が、約30名の会員の出席を得て開催された。総会に先立ち、本行寺（美原町）の原一彰副住職より「都市工学と函館の街作り」と題しての講演があった。総会では千葉敬氏が議長をつとめ、平成15年度の事業報告と決算、同16年度の事業計画案と予算案を議決した。続く役員改選では、運営委員から佐々木馨氏（北海道教育大学教授・文学博士）が副会長に選任され、原一彰・斉藤きよ子（恵山町）村田充の3氏が新しく運営委員に選出された。

各事業の担当は概ね次の様に決めた。

A 函館の未来を考える ◎佐々木馨

- ① 函館の歴史的建造物・史跡の調査・保存及び啓蒙活動 ◎若山○対馬（誠）
- ② 「函館市都市景観条例」施行後の検証 ◎吉村○対馬（誠）
- ③ 家族で大好きな函館 ◎吉村○飯田
- ④ 函館山要塞跡の調査 ◎吉村○藤井（康）
- ⑤ 学習会・講演会 ◎千葉○木村（一）
- ⑥ 第27回チャリティーパーティー ◎対馬（誠）○藤井（康）
- ⑦ 研修旅行 ◎佐々木（正）○根本
- ⑧ 会報 ◎落合○太田
- ⑨ 事務局 ◎石井○佐々木（正）



講演する原氏



## 未来像を求めて

会長 清野恒夫

本年度の総会も終了して、新しい活動に入りました。

全国町並み保存連盟も昨年よりNPO法人となり、函館の歴風会も含め全国70団体の加盟になりました。単体でのNPOも増え、地域の行政機関を中心に国交省や文化庁などから支援を受け、保存運動から活用運動へと景観保存と同時に地域の伝統的文化・産業を守り育てる運動と連動させるなどの転換を計り活性化しています。

函館でも観光産業の進展に合わせ、西部地区の町づくりが進んでいますが、古い建造物の縮小や取り壊し・駐車場利用の為に空地が目立ち始めています。また、先人の創意に満ちた函館独自の疑洋風防火壁や坂道の石畳が消え、歴史の重厚さと異国情緒が薄くなり、没個性的な町に変貌しつつあるように思います。今年度は景観条例の検証をしたり、じっくりと町の隅々を見つめながら、市民の望む未来像を求めていきたいと考えています。

## 「第16回日本海峡フォーラムinはこだて」に出席して

歴風会事務局長代行 石井 満

この日は、午後2時30分より海峡都市会議が、隈元信一氏（朝日新聞社論説委員）、をコーディネーターとして、海峡都市ブランドの形成をテーマに津軽海峡、関門海峡を挟む4都市の市長をパネリストに話が進んだ。

各都市とも、将来を見据えた、「海峡・海・港」を中心として育まれてきた海峡都市の持つ優位性を「産業・経済」「文化創造」「市民意識」の各分野において、最大限活用し、他の都市、地域にはない一種の差別化された付加価値の形成についてと、まちづくりのあり方を真剣に興味のある討議が行われました。

海峡を挟んだ都市という事で、大きく見れば海を媒介とした物流拠点に都市の将来を託そうという姿勢が共通していると言えます。

一方、掘り下げてみると同じ海峡を挟んでるとはいえ、歴史・文化・自然条件に左右された、その地の特色を生かして街作りをしようという、真剣さが伝わってきて楽しく聞く事が出来ました。

函館井上市長は今年の12月1日の一市三町一村の合併で、海を共通のキーワードとして函館国際水産・海洋都市構想を力説していたし、青森の佐々木誠三市長がヒラメの養殖で差別化を図りたいとの話を受けて、ヒラメを沢山漁獲しカゴメ昆布共々函館の名産としたいと応えると、佐々木市長は青森のヒラメを無断で捕っては困る、と冗談を飛ばし会場爆笑という一コマまであり、16年間の交流の積み上げ無くして成し得ない、楽しいフォーラムに参加させて戴き感謝を述べて置く。

## トピックス

- ◆ 8月29日 「つつじ山荘」見学会  
会員7人が参加し、所有者の清水憲朔氏より案内していただきました。
- ◆ 9月26日 ソレイユ祭り  
AM10:30~PM15:00 総合施設 旭ヶ岡の家
- ◆ 10月13日 映画上映会  
PM1:00 函館市芸術ホール  
「伊能忠敬-子午線の夢-」
- ◆ 10月16日 文化講演会  
PM1:30~16:00 サンリフレ  
「函館の過去・現在・未来」奥平 理 先生
- ◆ 11月6日 西部地区を中心に目と足による  
「市内見学会」を企画。  
AM10:00~PM15:00  
高龍寺五百羅漢像他普段あまり見られないものを探ります。
- ◆ 11月14日  
PM13:30~ 函館市芸術ホール  
「函館市の近未来の都市像について」  
シンポジウムを開催。

- ◆ 平成16年 第27回新春チャリティパーティーについてのアンケート（別紙）を同封しますのでよろしく。
- ◆ 「30周年記念事業」実行委員会設置  
平成20年、当会は30周年を迎えます。記念事業実行委員会は運営委員から5名、会員から5名の計10名で構成します。
- ◆ 今年度の会費の納入をよろしくお願ひします。

### \*\*\* 編集後記 \*\*\*

- 御多分にもれず、高齢者（私）が、高齢者（姉）を在宅看護をした3年間、清野きみ氏と他の会員にすっかり会報編集をお願いしたこと、まずもって深く感謝申し上げます。
- 第77号よりいよいよ改めてバトンタッチを受けた途端に発行月日が大幅に遅延し誠に申し訳ございません。
- 今号の再スタートに際し井上函館市長より玉稿をいただき、この感激を終生忘れることなく編集委員会一丸となって邁進いたします。（落合記）